

## 平成 24 年度 事業原簿（ファクトシート）

作成日：平成 24 年 4 月 1 日作成  
更新時期：平成 25 年 5 月 現在

制度・施策名称	—			
事業名称	環境・医療分野の国際研究開発・実証プロジェクト／シンガポールにおける国際共同研究開発・実証事業	PJコード：P12007		
推進部	国際部			
事業概要	産業技術分野を対象に、日本とシンガポールの双方が自国の企業・研究機関を支援し、双方にとって価値を生むイノベーションの創造を目指す。			
事業規模	事業期間：平成 24 年度～平成 26 年度 契約等種別：委託 勘定区分：一般勘定 <span style="float: right;">[単位：百万円]</span>			
		H24 年度 (実績)	H25 年度 (予定)	合計
	予算額	14	397	411
	執行額	14		14
<b>1. 事業の必要性</b>				
<p>本事業は、「パラレルファンディング」のフレームワークを構築し、海外展開を目指す日本企業の国際共同研究開発研究・実証の支援を行うものである。</p> <p>日本の産業技術分野における技術水準は世界的にも高い位置にある。しかし、単品の技術をグローバル市場に勝ち残るイノベーションにつなげるためには、実用化を見据えた研究開発が不可欠であり、成果をタイムリーに国内・海外に発信できる体制も必要である。実用化対象を早期にグローバル市場に投入し、市場における優位性を確保するためには、研究開発・実証の一連の活動をスピード感をもって行うこと、当初からグローバル市場を視野に入れ十分に情報収集すること、一連の活動を行いやすく成果の情報発信をしやすいサイトを活用することなどが有用である。</p> <p>パラレルファンディングでは、日本は日本の企業・研究機関を、相手国は相手国の企業・研究機関を支援する。NEDOはシンガポール国家研究基金（National Research Foundation：NRF）との間で研究開発に関する包括的な覚え書きを締結している。本事業はこの枠組みを活用し、海外展開を目指す日本の企業の国際共同開発研究・実証を支援することで、新たな価値を生むイノベーション促進を目指すを旨とするものであり、NEDOが取り組むべき新しい試みとして重要である。</p>				
<b>2. 事業の目標、指標、達成時期、情勢変化への対応</b>				
① 目標				
日本・シンガポールのコラボレーションによる効用を十分に活用し、単独の活動よりも優れた成果を生み出すことを目標とする。				
② 指標				
事業で生み出した成果を、事業終了後に実用化すること				
本プロジェクトでは、研究開発・実証から生み出される製品・システム等（以下「成果」と呼称）が、実際の環境ないしはその類似環境（以下、「フィールド」と呼称）でその有効性を示し、現場に投入されることが可能な技術を確認した段階を「実用化」と定義する。				
具体的には、対象とする分野・技術の特質に応じて、下記のいずれかを適用する。				
A) 「成果」が市場に投入された段階				
B) 「成果」を市場に投入しないが、自社の生産ライン等において実用に供された段階				
C) 「成果」の市場投入の前段階として、評価版を関係者（実施者コンソーシアム外の有識者）やフィールドの利用者に提供し、使い勝手や性能を試用してもらう段階				
※なお、医療機器・創薬基盤技術の「成果」の場合は、臨床試験を開始した段階				

③ 達成時期 事業（継続研究含む）終了後 3～5 年後で実用化開始
④ 情勢変化への対応 なし
① 評価に関する事項
① 評価時期 ・毎年度評価：平成 25 年 5 月
② 評価方法（外部評価又は内部評価、レビュー方法、評価類型） ・毎年度評価：内部評価とする

# 平成 24 年度 事業評価書

平成 25 年 10 月 8 日作成

制度・施策名称	—	
事業名称	環境・医療分野の国際研究開発・実証プロジェクト／シンガポールにおける国際共同研究開発・実証事業	P Jコード：P 1 2 0 0 7
推進部	国際部	
<b>0. 事業実施内容</b>		
<p>本事業は、「パラレルファンディング」のフレームワークを構築し、海外展開を目指す日本企業の国際共同研究開発研究・実証の支援を行うものである。</p> <p>平成 24 年度の実施内容は次の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の実施内容をシンガポール国家研究基金（National Research Foundation：NRF）と協議</li> <li>・制度設計を実施</li> <li>・公募を実施し、審査の結果以下 3 件を条件付きで採択。この 3 件については H24 年度末までフィジビリティスタディ（FS）を行い、その後本格的事業の実施可否を検討する予定。             <ol style="list-style-type: none"> <li>①「メンタルヘルス状態計測の研究開発・実証」</li> <li>②「生活習慣病予防支援技術の研究開発と実証」</li> <li>③「極細径複合型光ファイバによる生体情報計測システムの研究開発・実証」</li> </ol> </li> </ul>		
<b>1. 必要性（社会・経済的意義、目的の妥当性）</b>		
<p>本事業は、「パラレルファンディング」のフレームワークを構築し、海外展開を目指す日本企業の国際共同研究開発研究・実証の支援を行うものである。</p> <p>日本の産業技術分野における技術水準は世界的にも高い位置にある。しかし、単品の技術をグローバル市場に勝ち残るイノベーションにつなげるためには、実用化を見据えた研究開発が不可欠であり、成果をタイムリーに国内・海外に発信できる体制も必要である。実用化対象を早期にグローバル市場に投入し、市場における優位性を確保するためには、研究開発・実証の一連の活動をスピード感をもって行うこと、当初からグローバル市場を視野に入れ十分に情報収集すること、一連の活動を行いやすく成果の情報発信をしやすいサイトを活用することなどが有用である。</p> <p>パラレルファンディングでは、日本は日本の企業・研究機関を、相手国は相手国の企業・研究機関を支援する。NEDO はシンガポール国家研究基金（National Research Foundation：NRF）との間で研究開発に関する包括的な覚え書きを締結している。本事業はこの枠組みを活用し、海外展開を目指す日本の企業の国際共同開発研究・実証を支援することで、新たな価値を生むイノベーション促進を目指すものであり、NEDO が取り組むべき新しい試みとして重要である。</p>		
<b>2. 効率性（事業計画、実施体制、費用対効果）</b>		
<p>① 手段の適正性</p> <p>NEDO が単独で費用負担するのではなく、相手国も相応に費用負担する新しい試みを取り入れている。これにより、相手国の研究リソースを活用し、単独で得られる以上の成果を期待できる。また、相手国の参画意欲も高く維持されると想定される。</p> <p>② 効果とコストとの関係に関する分析</p> <p>現在、FS 実施中であり事業としては端緒についたところであるため、効果とコストとの関係を十分に分析するためには今後の本格的事業実施の継続的モニタリングが必須。</p>		
<b>3. 有効性（目標達成度、社会・経済への貢献度）</b>		
<p>現在は本格的事業を実施する前であり、目標達成度を測る段階にない。</p> <p>ただし、以下のような事例は、本事業で行った公募が、海外展開を目指す日本企業にむけた情報発信の機会として機能したことを示している。</p>		

<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本企業 A 社は本事業に応募し、NEDO 側では採択に至らなかったが NRF に提案内容を認められ、NRF の支援のもとシンガポールにおける事業展開準備中。</li> <li>・日本企業 B 社は本事業への応募をきっかけに NRF からシンガポール内の他の政府機関の助成制度を紹介され、申請を検討。</li> </ul>
<b>4. 優先度（事業に含まれるテーマの中で、早い段階に、多く優先的に実施するか）</b>
特になし
<b>5. その他の観点（公平性等事業の性格に応じ追加）</b>
特になし
<b>6. 総合評価</b>
<b>① 総括</b> 本事業は、「パラレルファンディング」のフレームワークを構築し、海外展開を目指す日本企業の国際共同研究開発・実証の支援を行うものであり、新たな価値を生むイノベーション促進に直結する試みとして、必要な改善を取り込みつつ今後も取り組むべき必要性がある。また、双方の国が応分の費用負担をするという新しいフレームを有効に活用できれば効率性も高い。さらに、日本企業の海外展開に向けた情報発信の機会として有効性を期待できる。
<b>② 今後の展開</b> 平成 25 年度に実施する FS の評価を踏まえ、制度の改善点の洗い出しを行う。得られた改善点は第 3 期中期計画・中期目標に掲げる“コファンド事業”の制度設計に盛り込み、同事業内の一環として位置づけを再設定する。